

〈旅立ちの時〉

池のオタマジャクシに手足が出て、いよいよ旅立ちの時を迎えた。春先、おびただしい数のヒキガエルの卵がやがてオタマジャクシになり、池を真っ黒にしてゆらゆら泳ぎ回っていた。その間メダカやヤゴに食べられて激減してしまうが、生き残ったオタマジャクシは3ヶ月くらいでカエルになる。そして雨の日を狙って上陸するのだ。今日は久しぶりの雨、気が付けば足元に7~8mm程度の赤ちゃんガエルがうじゃうじゃ歩き回っていた。黒くて小さいからそれとは気づかず、踏んづけてしまうこともある。鳥やヘビに見つかったり、野良猫に弄ばれたりしてしまうものもある。天敵から無事に逃げて大人になれるのはほんの数匹だけ、ほとんどが食べられて他の命になってしまう。そうやって自然界の生き物は繋がり合ってそれぞれの種を守っている。生き残った赤ちゃんガエルも、虫を食べながら少しずつ大人になっていく。ガンバレ、赤ちゃんガエル！



“俺は俺の道を行く！”



“北へ行こうか南へ行こうか”



“お前誰だ？食えるのか？”



“俺は絶対生き残る！”



“こんなはずじゃなかったのに”